

知道 CHIDO-KAIHO 会報

69

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸 3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成18年9月20日
通巻 第69号
メール chidou@world.odn.ne.jp

目次	企画	同窓会は何のため?	1
	一高だより	陸上競技部・弓道部・吹奏楽部など活躍	4
	同窓会・支部だより	31 会卒業 50 周年記念同窓会	6
	PERSON	映画監督の柳町光男氏	7

10月29日(日) 会員の集いを開催 会場は水戸京成ホテル

平成18年度(第56期)「知道会会員の集い」を次の通り開催いたします。3学年の当番制による開催も今年で5年目を迎え、内容も充実し安定してきました。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

出席される方は、同封の葉書で10月15日までに返信してください(欠席の場合は投函しないでください)。

日時/平成18年10月29日(日)

午後2時30分～5時15分

場所/水戸京成ホテル

水戸市三の丸1-4-73

電話029-226-3111

会費/5,000円

<内容>

第1部 記念講演会

午後2時30分～3時30分

講師 武藤起一(昭50卒)

演題 「映画なしでは生きられない」

巷に映像が溢れかえるこの時代に本当に必要なのは「優れたコンテンツ」。その中で特に映画の果たす役割は大きい。ビジネス上でもそうだが、それ以上に良質な映画は私たちにとっての大切な“心の栄養”なのだ。そんな映画のために私にできることは何か?



武藤 起一 氏

【講師プロフィール】

早稲田大学政治経済学部卒。1985年より7年間、雑誌ぴあが主催する「ぴあフィルムフェスティバル(PFF)」のディレクターを務める。1991年に映像コンテスト番組「えび天」(TBS系)のレギュラー審査員として定評を得た後、“映像環境プロデューサー”として、日本の新しい映画状況を切り拓くための様々な活動を展開。1997年に「ニューシネマワークショップ」を開校、日本の映画産業を担う多くの人材育成を映画業界に送り出す。主なプロデュース作品に『アベックモンマリ』(1998年)、『とらばいゆ』(2001年)、『アニムスアニメ』(2003年)。主な著書に「シネマでヒーロー」(俳優編、監督編/ちくま文庫)などがある。

第2部 懇親会

午後3時40分～5時15分

今年の懇親会に華を添えるのはピアニストの飯野明日香さんによるピアノ演奏です。飯野さんは高校卒業後フランスへ留学。パ



リ国立高等音楽院ピアノ科を一等賞にて卒業後、東京芸術大学入学。オルレアン20世紀ピアノ国際コンクールスペディアム賞をはじめ多数の国際コンクールに入賞されており、多くの国々で演奏会をされています。普段お疲れの知道会の皆さんへ、くつろぎの空間を提供してまいります。

代議員会議を同時開催

第17交代議員会議を次の通り開催いたします。各学年、地域、職域の代議員多数の出席のもと、会務の審議をお願いいたします。

日時/平成18年10月29日(日)

午後1時30分～2時10分

場所/水戸京成ホテル 3F

議題/第55期事業報告

第55期決算報告

会計監査報告

第56期事業計画(案)

第56期予算(案)

その他

同窓会は何のため？

母校への想いを共有したい



母校への様々な想いを交え知道会について意見交換。9月1日に知道会館で



永井 靖彦 幹事長
(S 35卒・司会)

永井 同窓会の主要な目的に、在校生への支援があります。そのための資金は会員から頂く会費や寄付金です。会費制度を、終身会費制から年会費制へ改めたのは昭和55年のことでした。それからしばらくは、会費や学年同窓会からの寄付金などが順調で、母校創立120周年記念事業への協力や在校生海外派遣事業の継続実施など、数々の意義ある事業を行ってきました。ところが、会費納入の実績がこの数年落ちてきています。

参加できるような仕組みがあるといいですね。

奥野 管理をきちんとすることが必要ですけど、同窓会の活性化につながるのだと思います。

永井 知道会について会員は、年2000円の会費で何をやっているかがわからない。我々としては、具体的にこんなことをやっていますよ、と言わなければならない。

笠原 卒業生は年々増えているのだから、会費納入も増えていくのが自然ですが、実際は逆になっていて残念です。いろいろな同窓会組織を見てみると、職域同窓会にはしっかりした地盤があり、活動も定期的に行っていますので、職域同窓会を活用すると会費をうまく集められるのではないのでしょうか。

小野 代議員制度の見直しも必要と感じています。代議員をお願いする際は各学年に穴ができないように組織化を進める必要があり、各学年の会長や副会長がイコール代議員になるような仕組みができれば、学校や知道会の考えていることが直接学年同窓会に伝わることになると思うのです。



小野 邦夫 氏 (S 39卒)

黒木 自分たちは40代に差しかかって仕事も忙しく、同窓会になかなか参加できません。クラスによっては活発にやっているところもあるようですが、知道会については何をやっているのかよくわからなかったというのが正直なところですよ。

永井 同窓会は、各学年の同窓会が基本にありますからね。時代を共有した者たちのつながりは強いですし。

笠原 同窓会組織は、若い人たちには敷居が高いと感じられるのではないのでしょうか。例えば、インターネットのブログのように、気軽に

黒木 部活動でのつながりも強いですよ。同年代ばかりでなく先輩から連綿と続く伝統もある。母校の運動部にはいろいろ活躍しているところがありますが、野球で母校が一つにまとまった思い出は大きかった。一発で全体が盛り上がるのが、甲子園に出ること。野球

知道会の活動は会員の皆さんの「年会費」に支えられている。ところが近年、年会費の納入実績が伸びない。なぜ？永井幹事長のもと昭和30年代、40年代、50年代に卒業した会員たちが集まって行われた座談会は、知道会のありかたを根本から考える場となった。



年々盛んになってきたミニ歩く会

部OBとしては文武両道の学校づくりを、ぜひ訴えたい。この夏優勝した早実の齋藤投手は、文武両道の学校として早実を選んだそうですが、水戸一高もそのように選ばれる学校になるとよいですね。

永井 それにしても同窓会は、学年、地域、職域の各支部があり、部活動のつながりもある。会員はだぶって属しています。また、会員数の多い水戸知道会の場合は、バラバラだった活動を支部としてまとめ、組織化してきた経過がありますので、知道会本部、水戸知道会、さらに地域の支部というように下部組織がいくつも階層になっていて、学年やクラスの同窓会まで考えれば、会合はたくさんあるし会員の負担には大きいものがあるかもしれませんね。

笠原 知道会は、女性会員の参加が少ないと思います。女性は結婚や子育てなどの事情があって同窓会から遠ざかりがちになります。女性の会があるとよいのですが。

奥野 女性に参加してもらおうアイデアとして、“夫婦で卒業生”という人たちに呼びかけることもいいんじゃないですか。以前、女性会員どうしが声をかけあい旅行やゴルフなどで親睦を図っていたこともあります。そのような活動がしやすいよう、女性会員のための仕組みをつくるのが大切だと思います。

小野 知道会として、総務委員会が音頭をとり、各委員会どうしが会員向け事業について率直に語り合ってはどうでしょうか。会員のための事業は今のところ、会員の集い、旅行会、ゴルフ大会、名簿作成などですが、総務委員会としても、事業メニュー、やり方、周知などを工夫していく必要があると思う。知道会の各委員会には、それぞれ何人もいるわけですから、その中からいろいろな事業の企画を

出したりすることも考えられますね。この座談会のように、横のつながりも大切にしながら。そして、本部の役員としては、学年の代表幹事などに直接会って、知道会の活動を知ってもらえるようなこともやってはどうかと思っています。

奥野 今回の座談会が、同窓会とは何かという根本的な問題まで議論する場になったのは意義深いことだなと思います。同窓会を活性化するうえで、いろいろな事業を行っている各委員会のトップに立たれる方というのは、年功序列でトコロテン式になってしまったというのでは困ります。そして、やる気があって各委員会の事業に向けた人であれば年齢に関係なく活躍してもらえるとよいですね。

永井 知道会としては委員会組織にとらわれることなく協力しあって、会員のための事業を積極的に企画し、やっていきたいですね。知道会の究極は、在校生にすごいなと思ってもらえるような活動をしていくことではないでしょうか。在校生は将来の知道会員なのですから。

笠原 もし委員になっていなければ、何をやっているか、具体的にわからない同窓会費の意味を自問自答すると、高校3年間は、自分がそこから来ていて、自分の歴史を形成している一部分と思えるようになりました。自分とのつながりのあるもの、帰属するものをいつもは意識していないとしても、機会があれば想うことは、大切なことと思います。同窓会の組織があり、会報が発行され、卒業生同志の活動・交流が図られているわけですから、たとえ直接参加できなくても、同窓会費を払う意味があると解釈しています。

永井 それがみんなの潜在意識の中にある。それに火をつけるのが知道会の活動なのではないでしょうか。



奥野 茂雄 氏 (S 44 卒)



笠原 由里子 氏 (S 57 卒)



黒木 雅宏 氏 (S 58 卒)

5月

- 13日 昭和31年卒50周年同窓会
昭和42年卒同窓会
24日 水戸市役所知道会

6月

- 10日 常陽知道会
16日 県庁知道会
23日 昭和36年卒同窓会

7月

- 1日 岩間知道会
8日 土浦水中一高会
14日 東海村知道会
22日 鹿行知道会

8月

- 5日 昭和45年卒同窓会
昭和41年同窓会
12日 昭和46年卒同窓会
昭和60年卒同窓会
16日 下市知道会納涼会
19日 新荘知道会
25日 産業会館知道会
26日 昭和53年同窓会

9月

- 7日 昭和25年卒同窓会
8日 常陸太田知道会総会

お知らせ

新名簿を作成中

母校創立130周年を2年後に控えて最新の「会員名簿」作成を進めています。調査カードが9月初旬から発送されていると思いますのでご協力をお願いいたします。また、消息が未確認のクラスメイトの住所がわかりましたら、名簿会社または知道会事務局までお知らせいただければ幸いです。

印刷が完了しますと、調査カード未返信者、名簿予約のない方などへの最終確認を19年2月頃に実施し、名簿完成は19年6月中旬に予定しています。6月下旬にはお手元にお届けできると思います。

なお、これまでと同様に、広告の協賛をお願い申し上げます。

(名簿委員会委員長 打越芳男)

大躍進 陸上競技部

陸上競技部は本年大きく飛躍した。まず、5月の全国総体県予選において、女子400mリレーで昨年の6位から3位に躍進し、2年連続関東大会に出場した。個人の種目でも昨年の3種目から6種目で関東大会(川崎市)出場となった。特に、中邨友香(35組)は6月の日本陸上選手権に100mで本校として初めて出場するとともに、8月の全国高校総体(インターハイ)に100m、200mにおいて女子陸上部として初出場し、100mでは準決勝まで進出した。また、大串顕史(24組)は8月の関東陸上選手権に1500m、5000mで出場し、5000mでは5位に入賞し、10月の国民体育大会に出場することが決定した。小田倉香織(23組)も8月の関東陸上選手権に1500m、5000mで出場し、5000mで8位に入賞した。このように本校陸上部は昨年の実績を大きく上回り、大躍進しました。

健闘 弓道部

本校弓道部は関東大会の常連であるが、今年も男子団体が関東大会(横浜市)に出場し、ベスト16位に入賞した。また、男子個人でも関東に出場し、第7位に入賞している。男女とも高い技量を有しており、今後の健闘を期待したい。

充実 吹奏楽部

吹奏楽部は昨年の全国高等学校総合文化祭(青森市)や東関東吹奏楽コンクール(横須賀市)に出場するなど活躍が著しい。今年は東関東選抜大会(6月 厚木市)に出場して銀賞に輝くとともに、茨城県吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞した。日頃の練習も充実しており、今後の活躍が楽しみである。

歴史的一步 卓球部

卓球部は本年、歴史的一步を踏み出した。5月の関東大会県予選会で男子団体の部で第4位に入賞し、関東大会(筑西市)初出場を果たした。男子シングルスでも関東出場し、日頃のたゆまぬ努力が実を結んだと言える。指導陣も充実しており、今後の活躍が楽しみな部である。



関東大会団体初出場を果たした卓球部の部員たち。於水戸一高体育館

今 放送委員会は熱い

今年のNHK放送コンテスト県大会では、創作テレビドラマ部門で第1位、アナウンス部門で第2位、朗読部門で第3位にそれぞれ入賞し、全国大会(東京)に出場した。その結果、朗読部門で入選となった。また、8月の全国高等学校総合文化祭(京都)にも、ビデオメッセージ、アナウンス部門に県代表として出場した。日々の委員会活動における地味な努力が実を結んだものと言える。10月に行われる全国生涯学習フェスティバル茨城大会においては開催市町紹介を依頼されている。

これらの他、運動部関係では山岳部が国体関東ブロック大会(日光市)、

『今度は水戸で撮りたい』

映画監督 柳町 光男 氏

ジュニアオリンピック全国大会（富山県）、水泳部が関東大会（習志野市）、フェンシングで関東大会（前橋市）、インターハイ（京都市）に出場した。文化部では写真部が全国高等学校総合文化祭（京都市）に出品し、入選している。

恩田陸さん母校に

7月5日（水）、小説「夜のピクニック」などで著名な作家恩田陸さん（昭58卒 本名 熊谷奈苗）が、久しぶりに母校を訪れた。来校の目的は雑誌「プレジデント」の取材で、同期の面澤淳市さんやカメラマン、編集者が同行した。恩田さんは高校時代、知道編集委員として活躍していたこともあり、知道編集委員会の後輩たちと懇談の機会を持った。その後、新校舎を見学し、在校生たちとの写真撮影にも気軽に応じていた。



後輩の知道編集委員と談笑する
恩田陸さん

この9月末までの2ヶ月間、水戸南町のリードシネマで、「柳町光男監督作品集」が上映されている。1982年、大規模開発で変貌する鹿島を舞台に、崩壊していく家族や人間を描いた「さらば愛しき大地」で脚光を浴びた柳町光男監督（昭38卒）に一高時代の生活など話を伺った。

— 今回の作品集上映というのは水戸では稀な企画ですが、実現の経緯は？

柳町 今年発表した「カミュなんて知らない」が水戸内原のTOHOシネマで上映され、期待以上にお客さんが入った。水戸には同窓生が多く、彼らが見てくれた。その後、彼らから「他の作品も見たい、全部やろうよ」という声が上がって、たまたまりードシネマの支配人の小松崎さんが、以前「十九歳の地図」や「さらば愛しき大地」でお世話になった方だったので、ここで作品集の上映企画が実現した。僕の映画がこういう企画で上映されるのは、水戸では初めてなので、是非この機会に観て欲しい。また、9月23日（土）にはトークショーとその後飲み会も計画しているので、来て欲しい。

— 今後の制作予定は？水戸で作るという噂もあるが

柳町 いばらきフィルムコミッションの後藤室長は牛堀の同郷で、「今度は是非水戸で撮ってくれ」と言われているが、まだ構想の段階だ。ただ、千波湖周辺などは、昔と違い本当にきれいになった。ヨーロッパの小都市のような雰囲気もある。撮るなら水戸でオールロケと考えているが、どういうストーリーで作るか、練り始めたところだ。

— 水戸二中、一高、早稲田と進学し、早稲田では法学部で法曹を目指したと伺ったが、どのようなきっかけで映画界に入ったのか？

柳町 進学するなら水戸がいいということで、牛堀から水戸二中に14歳で来たが、牛堀から外に出られたのがうれしかった。下宿の身だから自由だったし、学



写真提供：茨城新聞社

校終わってからの唯一の娯楽といえば当時は映画しかなかった。下市にも3館あった。大学へ行っても新宿が近かったので、映画、演劇、音楽三昧の生活だった。卒業する頃には、映画の仕事ならできそうだなという自信みたいなものが付いていたと思う。ネクタイ締めてサラリーマンというのも嫌だったし。

— 今の一高生へのメッセージを

柳町 我々の頃は、日本も右肩上がりの時代で、がんばれば何とかできるというような予想できる社会だったが、今は違う。いい学校出ても、資格取っても、いい会社に入っても、どうも予測のつかない時代だ。生きた環境が全く違う世代に何を言えるか分からないが、時代は変わっても、人間が成長する時の、感性というか、内面が育っていく過程は大きくは変わらない。友達を作り、本を読み、映画を見る、あらゆることに好奇心を持つ、そういう中で人間の基礎を学んで欲しい。

＜柳町光男プロフィール＞

茨城県旧牛堀町生まれ。早稲田大学法学部卒。1969年フリーで助監督の仕事始める。1976年独自の制作会社〈プロダクション群狼〉を設立。（全作品）

1976「ゴッド・スピード・ユー！

BLACK EMPEROR」

1979「十九歳の地図」

1982「さらば愛しき大地」

1985「火まつり」

1990「チャイナ・シャドー」

1992「愛について、東京」

1995「旅するパオジャンパー」

2006「カミュなんて知らない」

31 会卒業 50 周年記念同窓会

5月13日、14日の二日間、ひたちなか市の『クリスタルパレス長寿荘』にて113名が参加し盛大に開催されました。卒業して50年、幹事からの案内状にも古希を目にした我々に、「節目の同窓会としては最後のものになると思われまですので万障お繰り合わせの上お気軽にご出席ください」と記されていましたが、50年という歳月の経過を改めて思い起こさせてくれました。

会場に入って驚いたのは、宴会場の仕切り一面に展示された卒業当時の一高の校舎、歩く会や市内をのんびりと走っている水浜電車、中でも31会のメンバーも正選手として何人か出場した昭和29年夏の甲子園高校野球大会出場時の写真は圧巻でした。幹事がみんなに声をかけて集めてくれた貴重な写真ばかりでした。

鈴木重次31会代表ならびに西野虎之介知協会会長の挨拶に続き宴会に入りました。会場内は昭和30年にタイムスリップした高校生の姿そのままの会員で溢れ、各テーブルにも話の花が咲いていました。アトラクションとして小沼ちか子さん（7組小沼貞治氏夫人）が出演し、「小沼ちか子青春ジャズコンサート」と題して青春時代の思い出の曲を歌っていただき、大いに会場を盛り上げてくれました。

当時の応援団長江口君の指揮で、全員で校歌「旭輝く」を大合唱した時は、感激のあまり、涙をこらえている会員の姿もみられました。二日目は幹事の配慮でゴルフ組と水戸藩の史跡探訪組とに分かれ、有意義な一日を過ごさせてもらいました。

水戸一高で学んだ幸せをしみじみ実感できた二日間でした。幹事の皆さんのご苦勞に感謝します。 増尾利一（31年卒）

サブロク会 45 周年同窓会

サブロク会（昭和36年3月卒）では平成18年6月23日、ホテルレイクビュー水戸に於いて45周年同窓会を開催した。昼の部として第100回目となるゴルフコンペを笠間東洋ゴルフ倶楽部で37名がプレーし矢島伸義君が優勝となった。

午後6時30分よりレイクビュー水戸で恩師野上浩先生、中川健二先生も元気なお姿でご参加して戴きました。サブロク会員55名の参加があり、卒業以来初めての出席者や遠くは神奈川県葉山町からなど県外から16名が同窓会に集まってくれました。

恩師お2人から近況報告を含めてお話を戴き、お元気な2人に記念品を贈呈しました。又、会員の中で名誉職に就かれた副知事・川又勝慶君、東海村長・村上達也君にも記念品を贈呈した。それからは、各組毎に演壇に立ち、代表が近況報告等を行うなど和やかな中、和気藹藹と進みあつという間の3時間が過ぎ校歌を熱唱し散会となり二次会にグループに分かれて散って行った。

又通常のサブロク会の活動として水戸では、稲田浩男君が主宰して毎月会合をもっています（場所はNHK水戸放送局近くの夢やさん）。東京では海老根宏君が幹事として奇数月の第3金曜日に「サン金会」と銘打ち東京駅八重洲口から徒歩5分の鶴のやさんに集まっています。

ゴルフは、小林正和君がゴルフ幹事になって年4回コンペを開催しています。

竹内（雅）記



45 年卒同窓会

8月5日（土）水戸黄門祭りの開催の日に、今回も以前の同窓会に合わせて開催しました。場所は「ホテルレイクビュー水戸」時間は午後4時開催。

定刻通り、横須賀君の司会のもとに開会の言葉・代表幹事の挨拶・恩師代表挨拶（今年叙勲を受けられた36組担任の松先生よりの「遠くから聞こえる友の足音の素晴らしさ」等の感銘する言葉をいただきました。）知協会事務局・北條様より水戸一高の現状と映画「夜のピクニック」の案内等の挨拶をいただきました。続いて乾杯の音頭を本年より水戸一高の教頭に着任した小田倉君発声のもと早速夏の暑さで潤いた喉を潤しながら、それぞれが賑やかに昔話や現在の状況等、今年卒業36年を経て改めて参加した同級生を遠くから眺めると、恩師との区別が付かないくらい状態になり、お互いが歳を重ねたことを実感しました。ただ話をしている私達は、18歳のままの状況で元気にお互いのことを語り合いました。

参加者への記念品として、卒業のときに貰っ

た「至誠一貫」の手拭いを複製したものを2枚配りました。宴も進みよいよ校歌斉唱の時間になり応援団・北村君の音頭で参加者皆で元気に唱を歌い櫻村君が2年後の開催を宣言して今回の同窓会を賑やかに終了しました。

事務局 中本邦彦

鹿行知道会

鹿行知道会（会長／綿引徳治・昭32卒）例会を7月22日にサンロード鹿島で実施いたしました。出席者は15名でした。本部より副幹事長の栗原氏（昭和48年卒）の出席をいただき、知道会会員及び在校生の活躍の報告がありました。また、出席者の近況報告では、会員間の思わぬ関係（地縁、血縁、学縁）が判明し大いに盛り上がりました。

毎回のことですが、先輩達の元気で活躍している姿に接すると、とても励みになります。次回も元気でおいでできることを約束して、校歌斉唱後鹿島の夜にくり出しました。なお、来年からは、当会の年次総会を毎年7月の第4土曜日に実施することになりました。今回欠席の方もお願い合わせてご出席くださいますようお願い申し上げます。

幹事 小室久二雄（昭48卒）

昭和 46 年卒学年同窓会

さる平成18年8月12日、ホテルレイクビュー水戸にて、46年卒の5年ぶりの学年同窓会が開催されました。五味田優校長先生、恩師の清水正美先生、石橋守先生、小林喜久男先生、鶴巻勝夫先生、益子芳男先生、濱崎厚先生、山崎睦男先生、松廣義先生、知道会より北條勝彦事務局長、大川英治前事務局長にご出席いただき、110名以上の参加者で盛り上がりました。

歓談も盛り上がった頃、恩師の先生方より〇×問題を出していただき、見事篠目清美さんが賞金5万円を獲得しました。最後に46会事務局長の富永潤一さんより五味田校長先生に土気高揚資金の目録を手渡し、校歌を歌っての閉会となりました。 36組幹事 坂場安男



土浦水中一高会

今年度の例会は、去る7月8日に土浦市の「ホテルカンコー」で開催しました。知道会本部から、副幹事長の栗原英則様及び事務局長北條勝彦様、さらに参議院議員の小林元様を来賓にお迎えし、総会・講演会・懇親会を行いました。

会長の挨拶・活動報告の後、栗原様からご祝辞をいただき、知道会の活動状況や、映画「夜のピクニック」についてのお話があり、9月の映画公開が待たれます。

講演会は、本会の副会長である大谷木照雄氏(昭33卒)にお願いしました。「前立腺ガン闘病記」という演題のもと、生々しい体験談を聞き、各自の健康管理の面でたいへん参考になりました。懇親会では、来賓や初出席者のスピーチもあり、思い出話等で大いに盛り上がり親睦を深めました。最後に校歌を斉唱し、次回での再会を期して散会となりました。

昭和34年卒・会長友部記



岩間知道会

岩間知道会は地区内の適当な所で年1回の総会を開いている。会員は毎年1~2名の出入りがあるが、30名前後で推移している。出入りがあるのは地区内の職場に勤務する出身者の希望者も会員としているためである。今のところ最年長は昭和3年卒で、最も若いのが昭和50年卒となっている。来る者は拒まず、去る者は追わずという集まりなので、若年会員の入会が減少傾向にあり、年々心細くなっている。年会費の3千円は殆どが飲食代となっている。

本年度の総会は本部から事務局長を迎え、20名の会員の出席で行われ、例年の如く、会長あいさつ、本部の現況報告等のあとすぐに懇談となった。

年1回の顔合わせなので、いろいろと話題に花が咲き時を忘れる状態ではあったが、コンパニオン嬢の時間延長がなかったのは、会員の高齢化の速度が予想以上に進んでいる証拠かもしれない。(常井)

常陽知道会

常陽銀行グループの在職者・OBで構成される常陽知道会は、去る6月10日(土)に水戸市の三の丸ホテルにて100名余の参加者を得て毎年恒例の総会を開催しました。

総会には母校より五味田校長先生、知道会より北條事務局長様をお迎えしました。五味田校長先生からは母校の近況報告をいただき北條事務局長様からは知道会の活動と今後の活動案内、会運営についての協力依頼等についてお話しいただきました。

当会員は茨城県内各地のみならず、北は仙台から南は東京まで職場が散らばっていることもあり、懇親会では皆テーブルを渡り歩き、酌を交わして旧交を温めました。また9名の新入会員が高校時代の活動や現在の仕事など、自己PRに続いて一同の若々しい歌声を披露し、場内から拍手喝采を浴びました。

2時間に及んだ総会は最後に全員で校歌を斉唱、幹事によるエールによって幕を閉じ、集まった会員達はまた来年の再会を誓い合いました。

県産業会館知道会臨時総会

去る平成18年8月25日、レイクビュー水戸にて県産業会館知道会臨時総会を行いました。

県産業会館知道会は、茨城県産業会館の入居団体(県内の主要公共団体)の職員で構成され、昭和55年に山本満男氏(昭17卒、知道会第6代会長)を会長として発足、現在32名の会員で構成されております。この度の総会において、小川稔令氏(昭17卒)が会長を退任し、小野喜昭氏(昭37卒)が新会長に就任することとなりました。十数年ぶりの開催となった支部会ではありますが、これまでの反省も含め事務局や会則の整備を行い、館内同窓生の交流・懇親を一層積極的に図ることといたしました。

総会には、10団体、28名が出席、懇親会ではお互いの情報交換を行うなど交流を深めることができましたと思います。今後とも、定期的に館内における活動を積極的に行い、同窓生の結束を深めてまいりたいと思います。平山桂己(昭59卒)



水戸斉昭の「借楽園記」碑文

錦正社 1,200円
安見隆雄 著
(33年卒・元水戸一高校長)

本書は、簡潔ではあるが意味深遠なこの「借楽園記」は、斉昭の宇宙感、為政者としての姿勢などを示して、大変興味深いものがある。内容が文雅高尚ではあるが、できる限り平易に読みやすくした名著である。



水戸史学の各論的研究

慧文社 9,000円
但野正弘 著
(34年卒・元水戸一高教諭)

「黄門様」として今も人々から愛される徳川光圀を生んだ近世水戸藩。その時代における数々の歴史的テーマを深く掘り下げ、さまざまな角度から考察・検証をしている。日本近世・幕末維新史学研究者や郷土史愛好家には是非お薦めしたい。



精神鑑定医の事件簿

日本評論社
2,200円
風祭元 著
(昭27準卒)

犯罪行為を行えば、その社会で決められた法律に従って罰を受けるのは当然であるが、犯罪者の中には、心身喪失者あるいは心身耗弱者とって責任能力を問えない者も多数存在する。精神科医として長年「司法精神鑑定」に携わってきた著者が、さまざまな事例から現代社会の中で精神鑑定の果たしている意義を説く。



茨城県自然紀行

東冷書房
1,619円
山崎睦男 著
(元水戸一高教諭)

茨城県全84市町村(合併前)の景観風土と動植物について、著者自らが現地を訪れ記録した小さな自然誌。

親睦委員会

名簿委員会委員長 打越芳男日本の文化と歴史を訪ねる旅、知道会親睦旅行伊豆一周コース

は、9月3日(日)～4日(月)の1泊2日、参加者27名で実施されました。

東京都内をいっぴくスムーズに通ってしまい、せっかく準備したトイレ付大型遊覧バスでしかが柏子坂、海老名サビエリアで時雨降の大木止となりました。御殿場近辺では富士山の雄姿も眺めることができ旅先の幸運を祈りました。沼津では海老の釜めしを賞味、三島大社にて旅の安全を祈願、大正天皇ゆかりの御用邸を見学、達磨山での富士山遠望お楽しみでしたが、堂ヶ島温泉に到着しました。本日のお酒は風光明媚な海岸に建つお風呂自慢の宿、広々とした大浴場で汗を流した後は、渚の露天風呂で三ツ峠岩を眺めながらのんびりと過ごしました。さて、夕食は海の幸たっぷりの漁業料理も大満足でしたが、渡辺氏(29)の司会でカラオケやビンゴゲームで盛り上がり時間の経つのも忘れ気がつかばお開きの時間。

翌朝は堂ヶ島海釣り遊覧船に乗船、下田では下田条織織物の地、了仙寺散策、昼食の後、伊東にある跡跡初期に建てられた3階建て木造建築の名旅館東海館を見学。当時の職人達の手工に驚嘆しました。

永井幹事長、木村委員長、八木沢様 過分の心付けありがとうございました。

飲み物担当平山様料金以上の積込み感謝しています。他、ご参加者の暖かい心使いに協力ありがとうございました。来年も良い企画をいたしまして皆様方のご参加をお待ちしております。

財務委員会

知道会の新年度が始まり、年会費を納入頂く時期になりました。会報に郵便局の払込票が同封されている方は年会費納入のご協力をお願いします。年会費は半年度でコンピュータで管理され二重に請求することがありません。

当財務委員会では年間予算に基づき適正な予算の執行を図っておりますが、たびたび会報等でご案内のとおり、年会費の収入が予算を割っております。毎回会費を学年、職域、地域で集めて納入下さる方が多数おられますが、この組織の輪が今以上に拡大することを期待しております。取りまとめ納入の中心になって下さっている方のご労苦に深く感謝申し上げます。

今般知道会本部も現状に甘んじることなく、永井幹事長を委員長に各委員会が

ら選出された方々で「年会費納付委員会」を組織し本腰を入れて年会費納入促進を図るため取り組み始めました。さまざまな意見が集約され知道会の活性化にも役立つものと期待されております。この件につきましてご要望・ご意見等がありましたら事務局宛ご遠慮なくお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

板橋義則(昭40卒)

広報委員会

東京知道会会報委員会との連携で「歴史講演会」を開催

広報委員会では、3年前から東京知道会会報委員会と、紙面の充実に向けた情報交換と懇親を目的に、毎年交互に合同会議を実施してきましたが、「いつまでもおしゃべりと酒飲みやってもしゃーあめな。」ということ、衆議一致し、共同事業に取り組みむことと相成りました。

まず第1回は、水戸天狗党をテーマにした「歴史講演会」。東京知道会会報委員会の有志達が、一昨年、天狗党の足跡を訪ねて信州を歩いた際、いまだに信州の人たちが天狗党士の墓に花を手向けていることに感銘し、「何としても天狗党に関わる郷土史家の方の話を聞きたい、話を聞かぬなら是非水戸で!」と温めていた企画で、今回、県立歴史館などの協力も得て実現の運びとなりました。開催日程は次のとおり。お問い合わせは事務局まで。

日時 平成18年11月3日(金、文化の日)午後2時から

会場 茨城県立歴史館講堂

(水戸市緑町2-1-15 電話029-225-4425)

講演 (まだ詳細は未定ですが)「天狗党の足跡を訪ねて」

講師 久野弥弥氏(幕末維新水戸有志を思ふ会副会長 昭31卒)

矢澤 喬治氏(伊那郷土史家)

会費 1,000円(さらに歴史館入館料が150円)

事務局たより

“映画”の話題でにぎやかだ。故深作欣二監督に流れをくむ小泉堯史監督(39年卒)の「博士の愛した数式」、カンヌやニューヨークの映画祭などへの出品で意欲的な柳町光男監督(38年卒)の「カミューなんか知らない」、そして、水戸一高伝統の歩く会を舞台にした「夜のピクニック」の著者 恩田陸さん(58年卒)など、この分野で活躍している多くの同窓生がおり、これからの知道会は話題が豊富だ。「夜のピクニック」は封切り間近だ。秋の夜長に“映画”をもう一度見直してみても如何か。

物故者

14. 11. 1 昭 23 秋山光一	17. 11. 10 昭 32 関直	18. 6. 5 昭 23 高畑知之	昭 30 小林義明
15. 2. 14 昭 39 嶋田尚	17. 12. 4 昭 35 大曾根正彦	18. 6. 10 昭 41 森島稔	昭 30 飯島孝之
16. 7. 昭 32 鯉沼良行	17. 12. 7 昭 32 軍司太平	18. 6. 16 昭 26 松本雪生	昭 30 谷津道彦
16. 11. 7 昭 32 長谷川浩	17. 12. 29 昭 31 江島精二	18. 6. 27 昭 32 片岡一朗	昭 31 雨谷武夫
17. 2. 2 昭 14 松尾伸	17. 12. 30 昭 29 大里亨	18. 7. 6 旧職員 稲田六郎	昭 32 笹島克夫
17. 2. 23 昭 23 三宅邦康	17. 12. 31 昭 23 稲田武男	18. 7. 13 昭 30 橋本岑生	昭 32 都築恭史
17. 3. 6 昭 15 野上英高	18. 1. 11 昭 44 柏村真一	18. 8. 10 昭 11 斎藤 巖	昭 33 鈴木雅之
17. 3. 15 昭 32 桜井力男	18. 1. 13 昭 12 助川卓夫	18. 8. 19 昭 30 井上順介	昭 38 渡辺昭
17. 5. 9 昭 33 古澤照久	18. 1. 21 昭 12 福地隆	昭 10 松葉二郎	昭 38 内田仁
17. 6. 27 昭 23 村田国忠	18. 1. 30 昭 63 松原裕	昭 14 池田武	昭 38 窪田哲夫
17. 7. 11 昭 32 市毛弘	18. 2. 1 昭 7 前川四郎	昭 16 坂部英治	昭 38 藤田正弘
17. 7. 28 大 11 黒沢 辰男	18. 2. 20 大 13 沼田秀郷	昭 24 秋元正二	昭 38 山本征一郎
17. 8. 18 昭 12 宮崎雄二郎	18. 2. 23 昭 24 矢萩要	昭 26 土井宏次	昭 38 佐々木功
17. 9. 1 昭 29 高島洵	18. 2. 25 昭 33 富田利英	昭 27 辻泰宏	昭 39 竹入和彦
17. 9. 27 昭 31 阿久津健彦	18. 3. 3 昭 27 小松崎実	昭 27 大越雄男	昭 31 茅根達男
17. 10. 27 昭 12 飯島正矩	18. 3. 15 昭 20 松原英男	昭 27 会沢宏本	昭 41 亀下柳太郎
17. 10. 28 昭 15 田口邦男	18. 3. 19 昭 8 植木 健	昭 27 飯坂道雄	昭 41 斎藤英昭
17. 11. 9 昭 24 小沼幸夫	18. 5. 3 昭 30 高橋英次	昭 27 滝田秀男	昭 41 松河和彦
17. 11. 30 昭 18 朝比奈一彦	18. 5. 5 大 12 山崎国寿	昭 30 大和田稔	平 3 松尾浩彰
17. 11. 4 昭 15 二川文之助	18. 5. 14 昭 38 齊藤功	昭 30 矢野倉勇吉	平 8 宮田千枝
17. 11. 10 昭 8 柴田孝寿	18. 5. 16 昭 35 斉藤賢一	昭 30 小笠原健自	平 15 石川謙介

※御逝去の御連絡のみいただいた方につきましては、年月日を空欄にさせていただきます。